

ちがさきアイデアソン

結果報告書

平成 31 年 3 月



目次

1. 概要.....	1
1.1. 開催概要.....	1
2. 結果.....	2
2.1. アイデアソン意見まとめ.....	2
2.2. 各グループ検討.....	6
Aグループ.....	6
Bグループ.....	9
Cグループ.....	12
Dグループ.....	15
Eグループ.....	18
3. 参考資料.....	21
3.1. 当日資料.....	21



1. 概要

1.1. 開催概要

テーマ	第1回 (A) 安全・安心・コミュニティ (B) 地域共生 第2回 (C) 子ども・若者支援 (D) 環境・まちづくり
目的	日頃から市内でご活躍いただいている団体の皆様と、次期総合計画の将来像の実現や、これからの茅ヶ崎市のまちづくりに向けた具体的な取組みアイデアについて意見交換を行い、今後の計画策定や行政の取組の基礎資料とする。
日時	第1回 平成31年3月20日(水) 18:30~20:30 第2回 平成31年3月28日(木) 18:30~20:30
場所	茅ヶ崎市役所本庁舎4階会議室
参加者	市内活動団体に所属する市民(21名、17団体) 市職員(各グループ1名、計6名) 計27名
プログラム概要	<p>【ワークショップ①】テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討 〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none">◆日頃の取組の中で感じている茅ヶ崎市の課題とその解決アイデアについて自由に対話を行い、新たな発想に繋げる <p>・日頃の活動を通して感じている課題や、今後の活動に向けた問題意識など、テーマに関する課題とその解決アイデアについて意見交換をおこなう</p> <p>【ワークショップ②】将来都市像の実現に向けた検討 〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none">◆将来都市像の実現に向けて、市と団体等の組織、市民の協働がどうあるべきか考える <p>・4つの「考え方・価値観」を共有したうえで、その実現に向けて「団体等の組織や市民でできること」、「市と団体等の組織、市民の協働がどうあるべきか」について考える</p> <p>【発表・全体共有】</p>

2. 結果

2.1. アイデアソン意見まとめ

分野別の意見まとめ

<安全・安心・コミュニティ>

分野	意見概要
災害対策	<ul style="list-style-type: none">◎地域内のコミュニケーション<ul style="list-style-type: none">→年齢層同士のコミュニケーションが必要。→私事しか考えられない人も多いため、人とのつながりの大切さを真剣に考えることが必要。→アパート入居者は、地域から隔離されている雰囲気もあるため、地域活性化のためにも、積極的に声掛けしていくことが必要。◎情報の共有化<ul style="list-style-type: none">→要支援者名簿の活用が重要→自治会、民生委員、消防団それぞれの考え方にずれがあり情報共有が難しい。→元気のある要支援者も含めた救援活動のため、共同体として意見交換が必要◎将来を見据えたまちづくり<ul style="list-style-type: none">→海岸線の津波対策（植栽による砂地の保護）◎地域の担い手の確保<ul style="list-style-type: none">→支え合う人たちの個々での意見が異なり、一つの共同体になることが難しいのが現状。

<地域共生>

分野	意見概要
市民活動	<ul style="list-style-type: none">◎市民活動の活発化<ul style="list-style-type: none">→活動している人が学校へ出向き説明するなど、市民活動との出会い、きっかけづくり。→メディア取材での活動 PR→個人的なつながりを持つことが、要支援者に関わるきっかけとなる。→海岸線の津波対策（植栽による砂地の保護）。◎ボランティア活動へのハードル<ul style="list-style-type: none">→参加条件などが厳しい状況もあるため、より自由に参加できる機会の創出、仲間づくりがボランティアにつながる仕組みをつくるなど、ボランティア活動へのハードルをさげることが必要。◎会社へのアプローチ<ul style="list-style-type: none">→社会貢献として、仕事での専門知識や技術を地域活動に活かすプロボノを推奨している会社に対し、地域での活動を促進する。
支え合い	<ul style="list-style-type: none">◎ 助け合い・支え合いの地域づくり<ul style="list-style-type: none">→市民が疲れている。要支援者だけでなく、一般市民も助けることが必要。◎ 人材不足<ul style="list-style-type: none">→自ら魅力的な活動をすることで人材確保につながる。→高齢者への外出支援が大事。
情報	<ul style="list-style-type: none">◎情報取得方法の明確化<ul style="list-style-type: none">→市の将来に関わりを持ちたいと考えたときに、どのような貢献ができるのか、そういった機会がどこでやっているのかなどのその人が欲しい情報の在処が分かりづらい。

<子ども・若者支援>

分野	意見概要
社会教育	◎体験を通じた子どもの育成 →茅ヶ崎市に立地している世界的な技術をもつモノづくり企業への職業体験の実施。 →障害のある生徒にも、社会性向上の体験の場を地域でつくる。 →ボランティアの活動で支えられた子どもたちが成長し、支える側になるような好循環をつくるのが大事。 ◎地域の人から学ぶ仕組み →様々な経験を持つ全ての市民を担い手として、子どもたちに様々な生き方を教える場の提供。
家庭	◎親と子の交流 →親子で過ごす時間を確保するための職住近接支援。
困難を有する子ども・若者支援 子どもの居場所づくり	◎行政の支援強化 →市民生活が抱える課題は複雑であるため、行政の積極的な関与が必要。 →市民の相談にワンストップでつないでもらえる仕組みの構築。

<環境・まちづくり>

分野	意見概要
エネルギー	◎再生可能エネルギー →再生可能エネルギーの普及・啓発 →学校への設置による環境教育への活用
自然の保全と活用	◎身近な自然 →公園の生物多様性の保護、駅前緑化の推進、景観に係る取組の実施と人材育成が必要。
農業	◎農業と自然のつながりの理解促進 →水田の機能など、農業と自然のつながりの理解を促進し、保全や活用につなげる。 ◎人材育成 →大学の環境を専攻する学生との協力。

■ 将来都市像の実現に向けた検討の意見まとめ

分類	意見概要
行政のあり方	<p>◎縦割り行政の是正 →行政と地域のつながりが密でなく、行政に依頼してもすぐに対応してもらえない。地域を考えた瞬発的な動きが取れるよう、行政の体制を整えていただきたい。</p> <p>◎職員の頻繁な異動による連携の困難さ →市の職員が頻繁に変わるため、協働しにくい。</p> <p>◎行政の役割の転換 →市、市民、市民団体の間の橋渡しの役割を行政には主体的に担ってほしい。職員、市民、事業所と一緒に学ぶような場の設定も必要。市職員が地域の行事に参加することも大事。 →組織の役割を明確にし、目標・目的を明示することが必要である。</p> <p>◎情報発信の改善 →市の状況を世代別に表現などのレベルを変えて、誰にとってもわかりやすい情報発信をしてほしい。 →多様な団体をどうつないでいくか、ともに話し合う場を設けてほしい。 →市民に行政の役割が伝わっていないため、もっと知らせていくべき。 →市の情報はタイムリーさに欠けるため、LINEなど全市民に早く、且つわかりやすく情報を届ける仕組みづくりが必要。</p> <p>◎活動の基盤づくり →会議の場所や活動場所が少なく、団体が活動するのに場所が不足しているという声が聞こえている。 →コミュニティバスの時間などが周知されていないため、高齢者の異動が難しく対策が必要。</p> <p>◎職員の資質向上 →市職員がソーシャルワークを学ぶことで、市民サービスは向上することが期待できる。</p> <p>◎市職員の働き方改革 →市職員が学習や交流の時間を確保できるよう、働き方改革をしてほしい。</p>
行政と団体の関係	<p>◎行政と自治会のあり方 →自治会のあり方も考える必要があるが、行政としての自治会とのつながりについても真剣に考えてもらいたい。</p> <p>◎行政と団体の意識のズレ →市は仕事で取り組み、民間団体は想いで取り組む人が多いため、擦り合わせが難しい。その壁を乗り越えるためには、立場を超えて、人としてつながることが必要。</p>
団体のあり方	<p>◎団体間の関係 →双方のテリトリー争いになり、押し付け合いなども発生してしまっている。団体間でそれぞれの意見・決定を尊重し、バックアップする仕組みを作らないと、本質的なディスカッションは難しい。お互いに事業の良さを共有し、少分野外にはみ出してみる柔軟な気持ちを持って協働できると良い。 →市民も縦割りになってしまっており、改善が必要。</p> <p>◎モデルケースからの発展による地域活動の活性化 →地域活動をプロジェクト化して短期間で小さく作り、その成功をモデルケースとして、他の団体や地域でも学び広げていくような活動が良いのではないか。その中で、行政がつなぎ役として重要である。</p> <p>◎ルールの徹底 →団体間でもきちんとルールや期日、時間を守る意識が必要。</p>

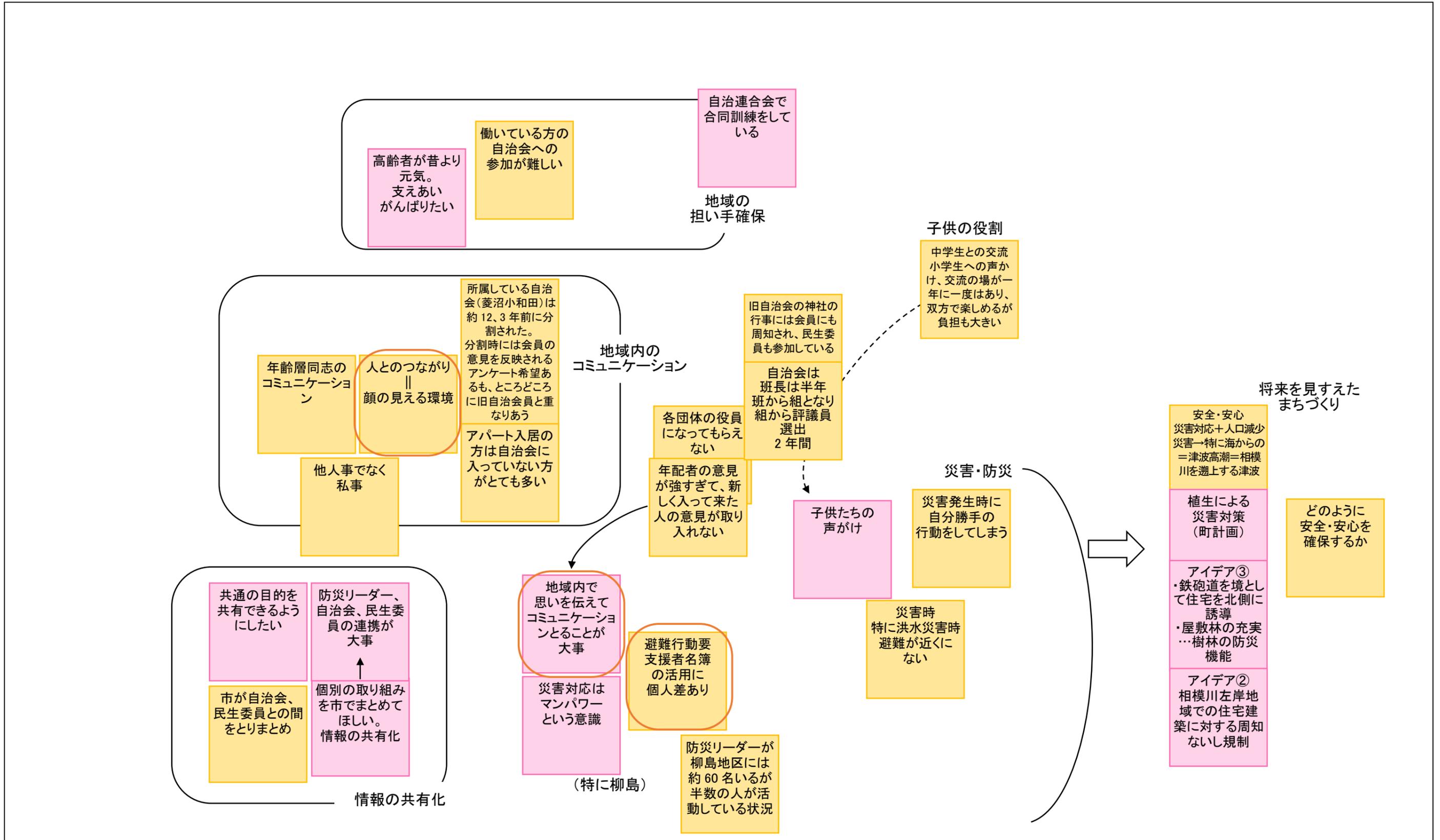
分類	意見概要
担い手確保	<p>◎担い手確保に向けた情報発信の行政の協力</p> <ul style="list-style-type: none"> →市民が団体活動を知る機会となるよう、活動の場の確保をお願いしたい。 →団体紹介のガイドブックをもっとわかりやすくしてほしい。 →モデルとなるような市民団体の活動を広く紹介するような方法も考えてほしい。 <p>◎若い人が地域に触れる機会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> →若い人も市民としてまちづくりを考えるような仕掛けや、学校の中で地域のことを学べる・体験できる場を設け、地域に触れる機会をつくることが大事。

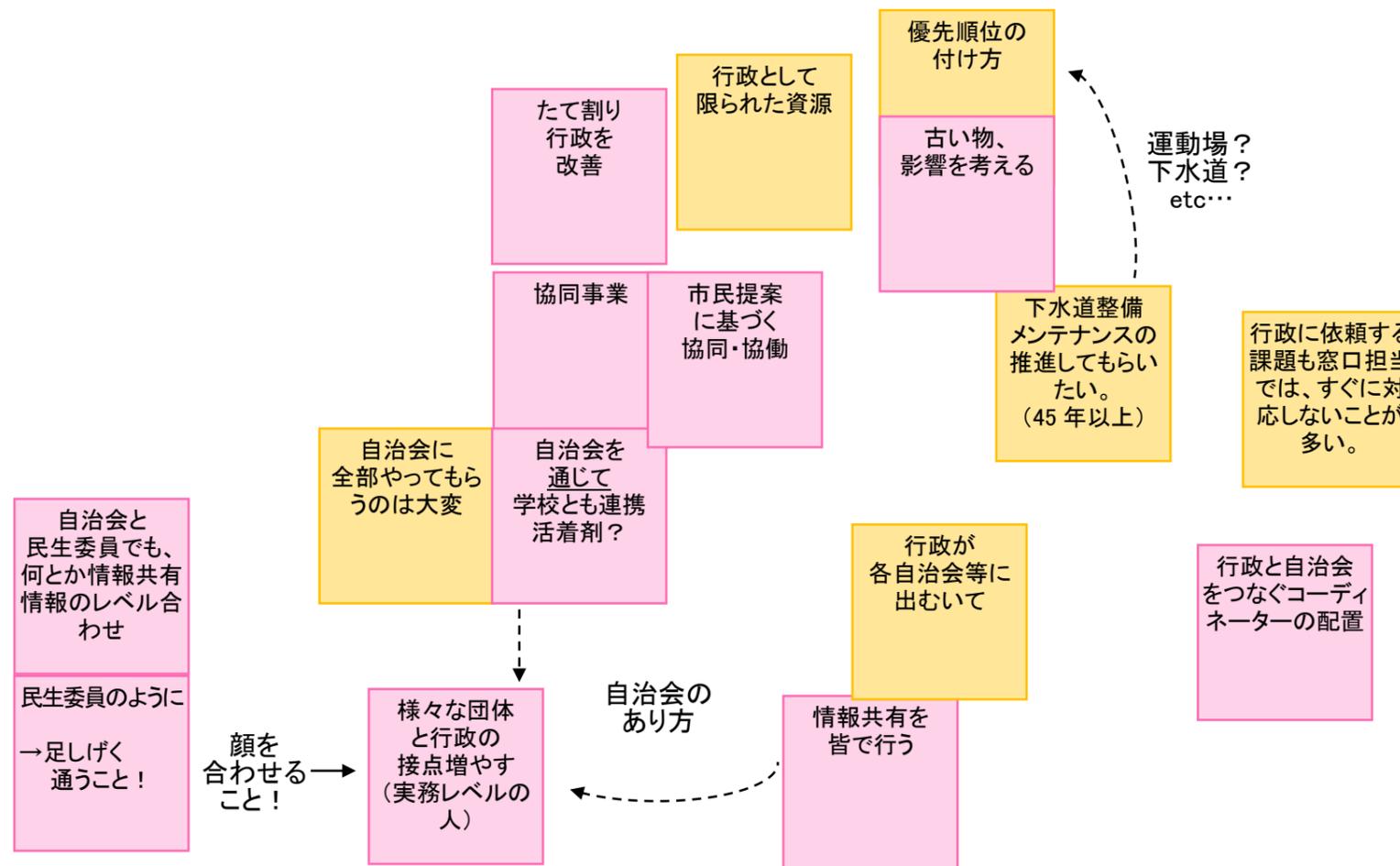
2.2. 各グループ検討

Aグループ

ワークショップ（1） テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討

グループ番号：A（安全・安心・コミュニティ）





ワークショップ① 「テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討」発表記録

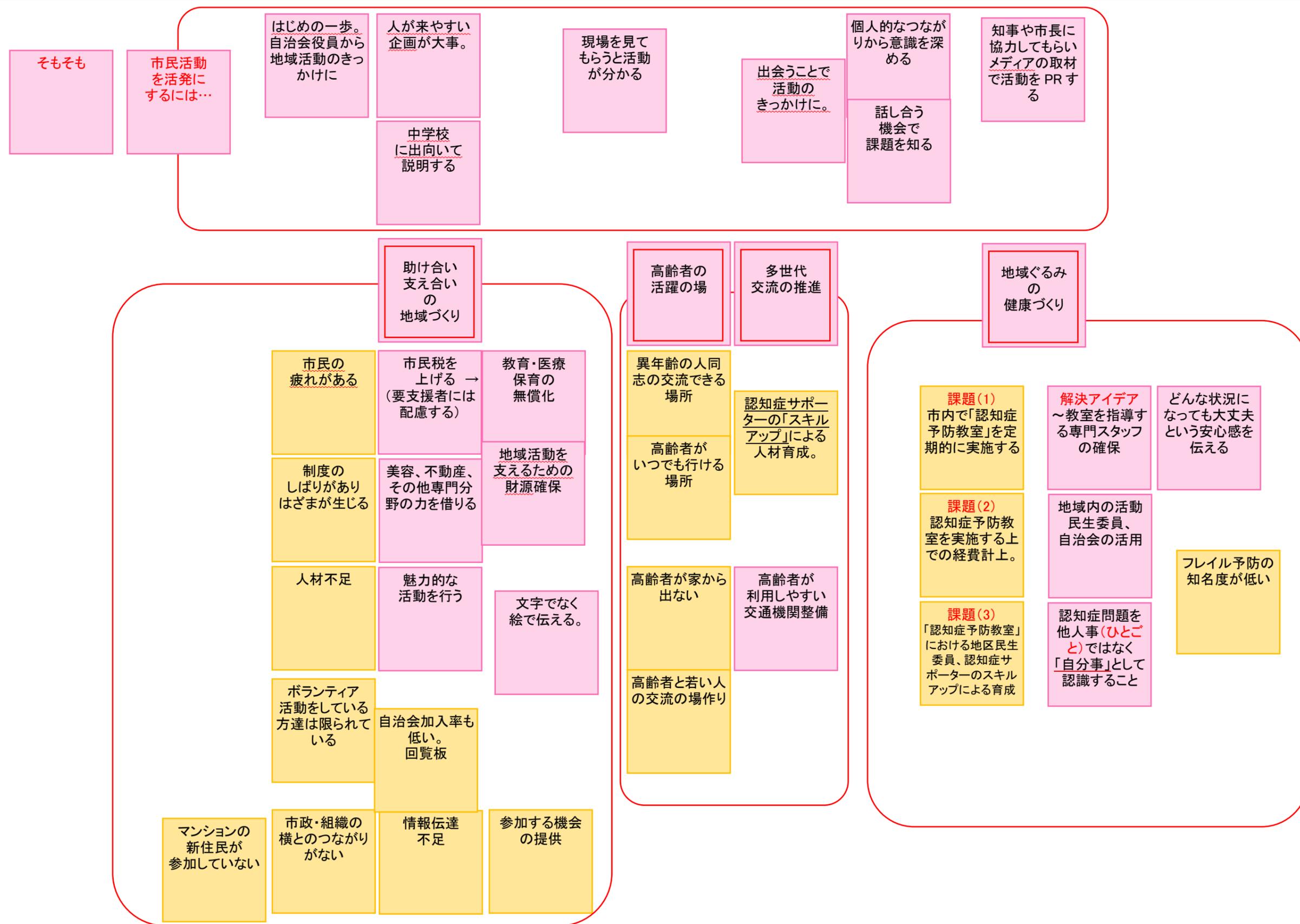
アイデアはあまり出ませんでした。地域の担い手確保、災害・防災について、地域内のコミュニケーション、情報の共有化ということで意見がありました。地域の担い手では、支え合う人たちの個々での意見が違うので、1つの共同体になるのは難しい状況が続いているという印象です。地域内のコミュニケーションについては、年齢層同士のコミュニケーションが必要であることや、他人事ではなく私事しか考えられない人も多いことから、人とのつながりが大切だということを実際に考えなくてはならないという意見がありました。アパート入居の方などは自治会に入っていない方も多く、地域から隔離されている雰囲気もあるので、地域活性化のためにも、もっと積極的に声掛けしていく必要があると思います。市が自治会、民生委員との取りまとめという話では、災害のことを考えると自治会単体で動くのは難しく、民生委員、消防団などの協力も必要となってきますが、その中でも、要支援者名簿の活用が重要となってくると思います。自治会、民生委員、消防団、それぞれの考え方にずれがあり、情報共有が難しい状況です。元気のある要支援者も含めた救援活動などを考えた場合、民生委員の意見を聞きながら的確に迅速に対応するためには、共同体として意見交換なども必要です。将来を見据えたまちづくりでは、海岸線の津波対策として、植物を植えて砂地を覆うのも有効ではないかとの提案もありました。

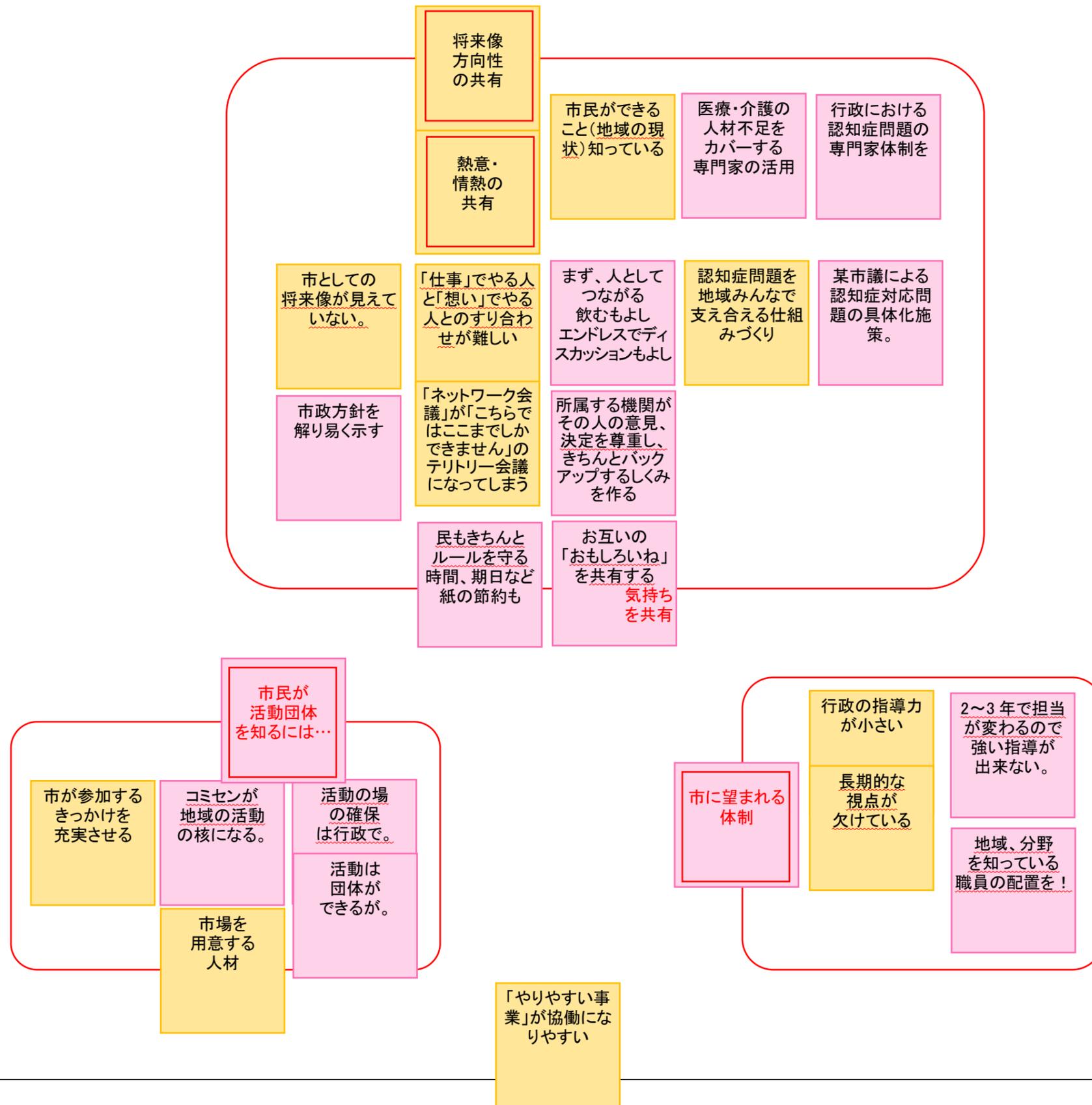
ワークショップ② 「将来都市像の実現に向けた検討」発表記録

行政と地域のつながりが密ではなく、行政に依頼してもすぐに対応してもらえない、自治会を通じて学校と連携したいが難しいという話がありました。自治会のあり方も考えなければならぬですが、行政としての自治会とのつながりを真剣に考えていただきたいです。縦割り行政が問題になっていますが、もう少し、地域を考えた瞬発的な動きで、行政の体制をとっていただきたいという話になりました。

ワークショップ（1） テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討

グループ番号：B（地域共生）





ワークショップ① 「テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討」発表記録

地域共生についてですが、中学校に出向いて説明するなど、多くの方々に現場を見てもらう、まずは出会うことが大切だと考え、きっかけとなる初めの一步が大切だと感じました。戦略的なことでは、知事や市長に協力してもらい、メディアの取材で活動をPRするという意見がありました。他には、個人的なつながりを持つことが、要支援者に関わる第一歩だという話になりました。このグループでは、高齢者の支援をやっている方が多かったのですが、フレイル予防や認知症予防の話での議論が多くありました。認知症患者は多くなってきているので、他人事ではなく自分事だと認識することが大事だと思います。寝たきりなどどんな状態になっても、今までと同じようなことも出来るなど、楽しく生活できるような状況をつくることも大切です。市民の支え合いに対する意見では、市民が疲れているといった話もあり、要支援者の方を助けるだけでなく、一般の人を助けることも考える必要があるのではないのでしょうか。例えばですが、市民税をあげるなどで保育の無償化を図り、勤労世代の余裕をつくることで、高齢者を支援できる余裕につながると良いと考えます。人材不足については、自ら魅力的な活動することにより、来てもらえることにつながるのではないのでしょうか。また、高齢者の方に交通機関の整備などの外出支援も大事だと考えます。

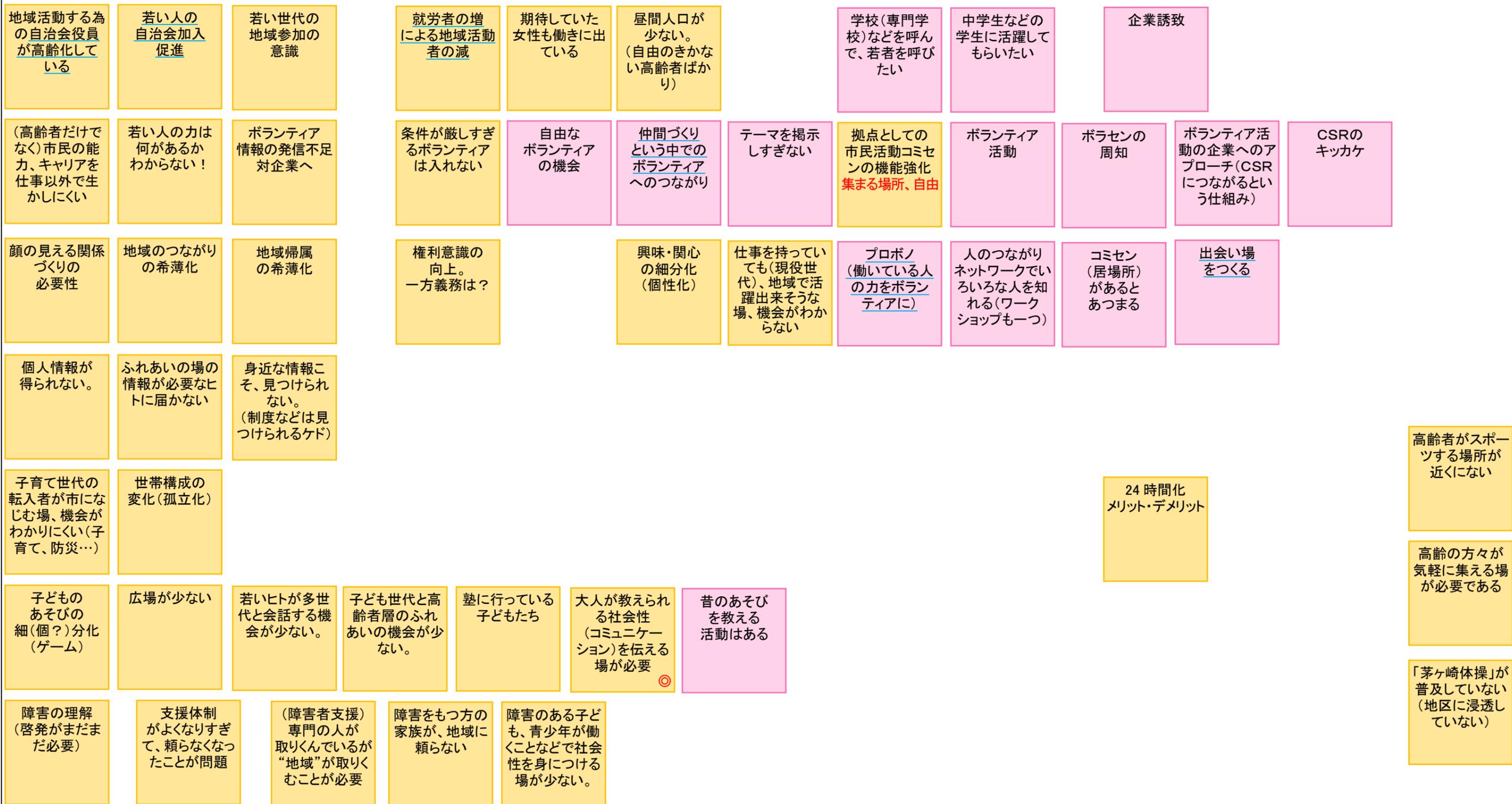
ワークショップ② 「将来都市像の実現に向けた検討」発表記録

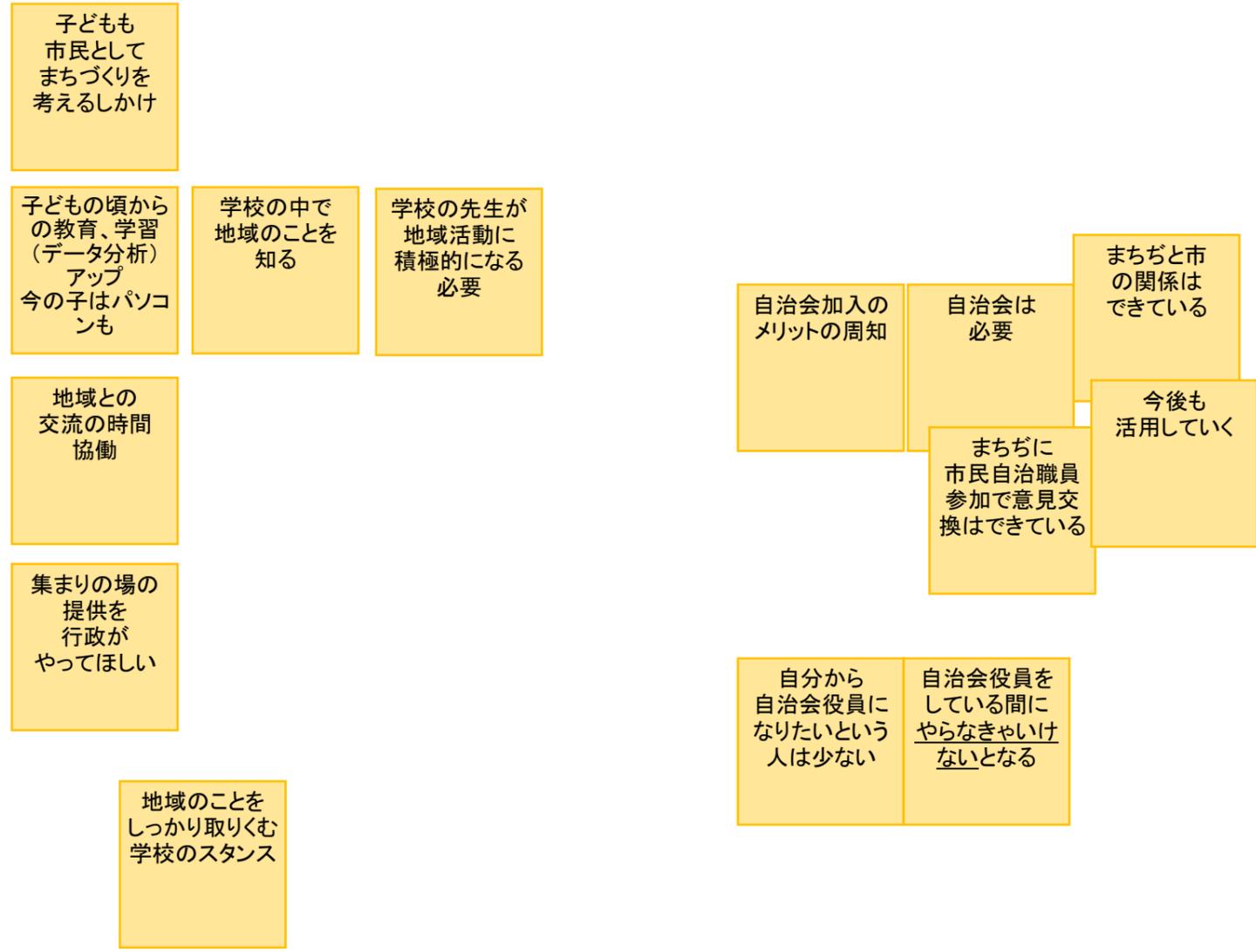
市との共同については、市の担当者が頻繁に変わるため、共同しにくいという意見がありました。市民が活動団体を知るには、活動の場の確保を行政で協力いただけると嬉しいという意見もあります。認知症の問題は、専門家体制が必要であることと、市議会でも認知症対応問題の具体化施策の話があがった話や、人材不足であるなどの意見がありました。市との共同を考えたとき、問題となるのが、市は仕事、民間は想いでやる人なので、その擦り合わせが難しいといったことがあります。壁を乗り越えるためには、飲みに行く、エンドレスでディスカッションするなど、立場を超えて人としてつながることが必要だと考えます。ネットワーク会議などでは、「こちらではここまでしかできません」など、双方のテリトリー争いになってしまうといった状況があります。所属する団体機関が、その人の意見、決定を尊重し、きちんとバックアップする仕組みを作らないと、本質的なディスカッションは難しいと思います。また、民間もきちんとルールを守る、時間、期日などを守らなくてはならないという話もありました。お互いにこの事業の良さを共有して、少しはみ出してみる気持ちを起こしながら共同するのが良いと考えました。

ワークショップ（1） テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討

グループ番号：C（地域共生）

「誰もが支え手」





ワークショップ① 「テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討」発表記録

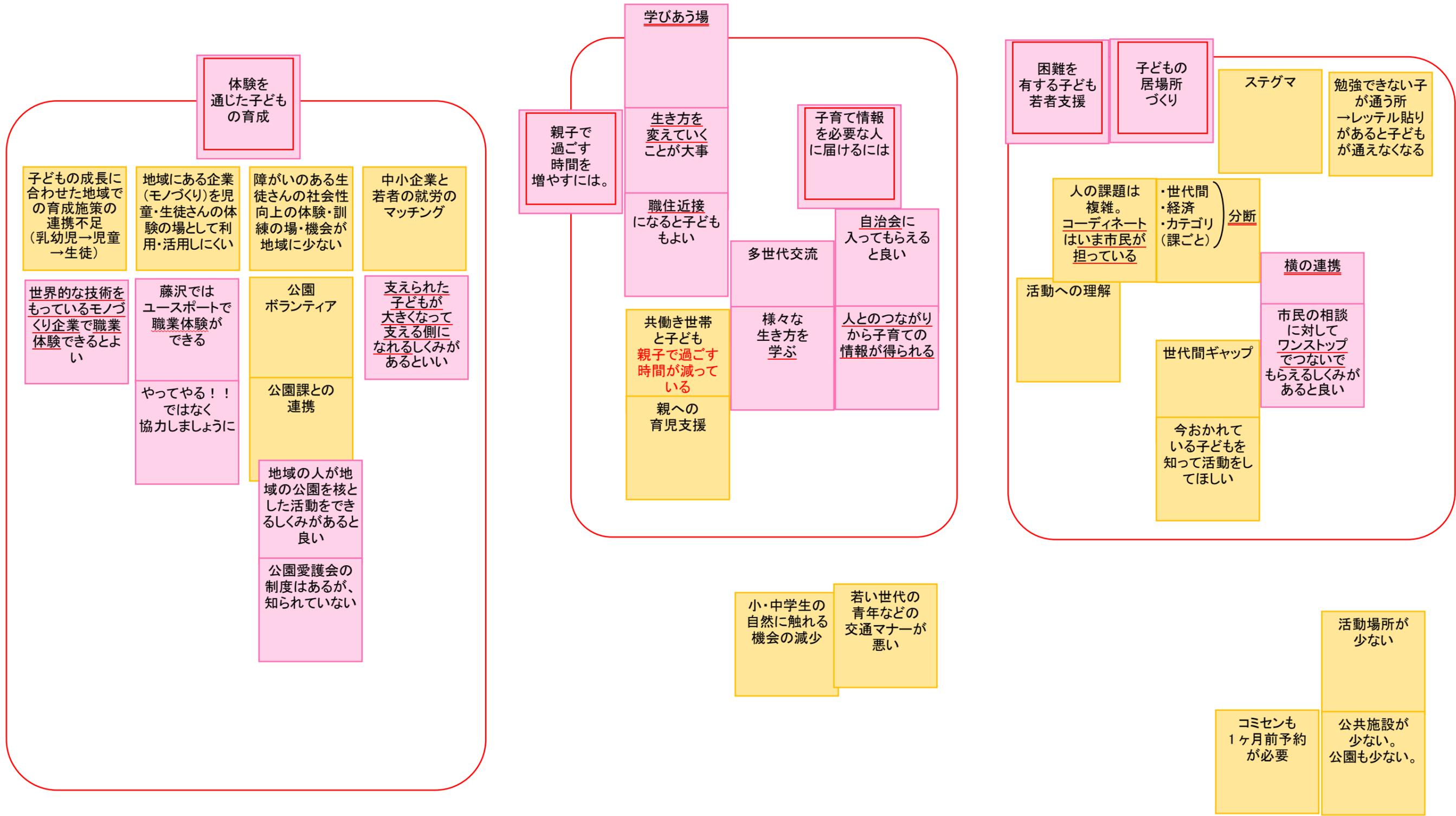
2年間ボランティア活動をした経験などから発言をさせていただきました。高齢者も若い人も年少者も市民であり、その人たちが、どうやって市の将来に関わり合いを持つかを考えたときに、自分の欲しい情報がどこにどの様にあるかが分からないということがあります。知識や技術や体力もある若い人などが、ボランティアなどに参加したいと考えたとき、地域にどの様に貢献できるかの情報が得にくい、そういった場に出るチャンスがないなど、能力や経験を持っている人を活かしてきていないという状況の改善が課題の1つだと思います。また、ボランティアに胡散臭いイメージがあったり、条件が厳しいなどがあるので、もっと自由に参加できる機会があると良いと思います。仲間づくりということがボランティアにつながるなど、ハードルを低くして、地域での活動に参加できるような場をつくと良いと考えます。今、市民活動の拠点としてコミュニティセンターなどがあり、人が自由に集まれ、地域のコミュニケーションを活性化する良い場所ですが、そういったこともあまり知られていません。インターネットや広報などで情報発信されていますが、本当に情報が欲しい人には伝わっていない状況で、人から人への口伝で情報を得ている方が多いです。茅ヶ崎市は若い子育て世代の転入者が多いですが、情報をどの様にして得たら良いか分かりにくいといった話をよく聞きます。今はCSRといった社会貢献としてプロボノという活動を進めている会社もあります。そういった会社にもアプローチして、地域での社会活動を促すようなことも進めてみては良いのではないかと思います。そうした中で、ボランティアや地域とのコミュニケーションの良さを感じ取って、活動が広がってくると良いという話になりました。

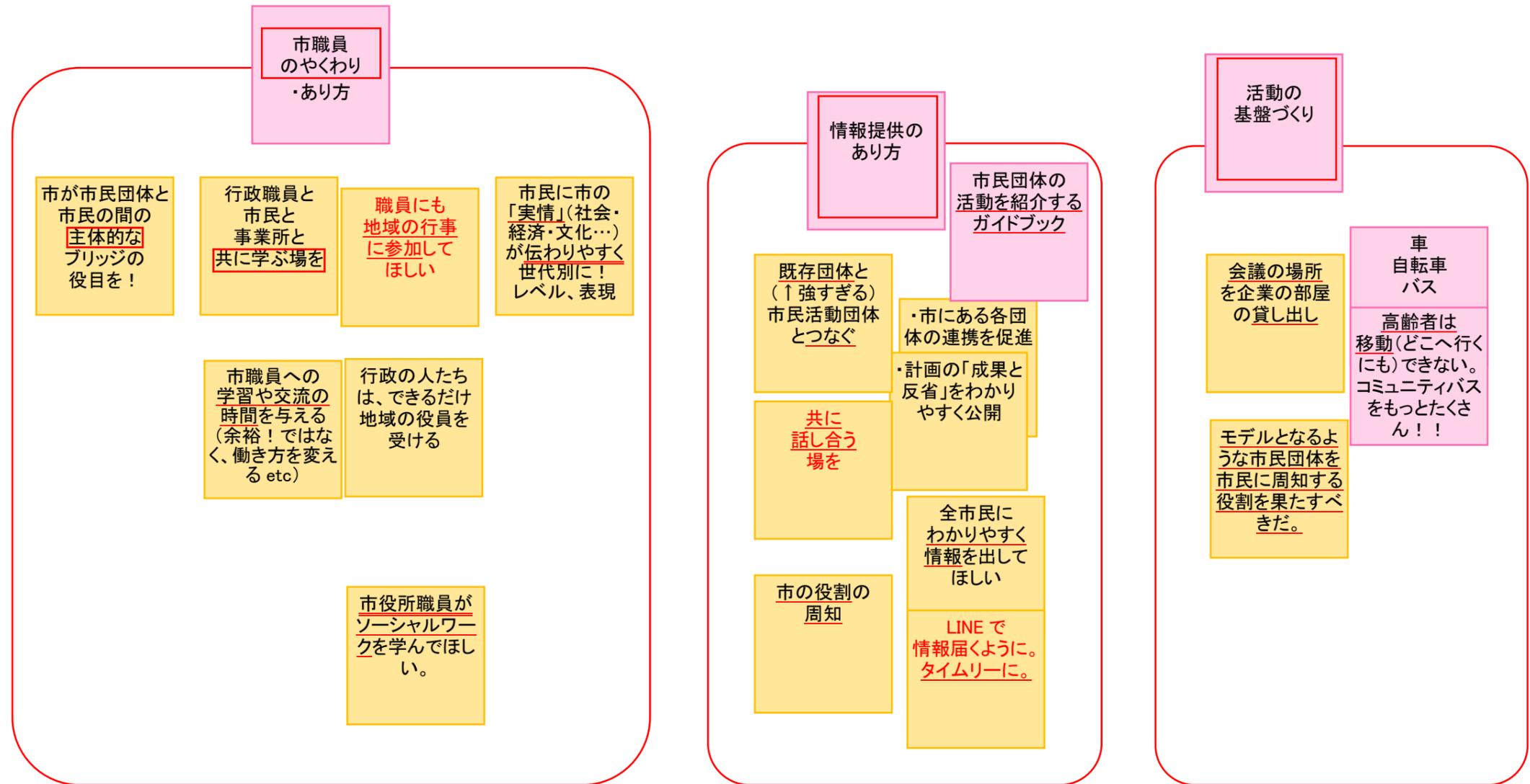
ワークショップ② 「将来都市像の実現に向けた検討」発表記録

若い人も市民としてまちづくりを考えるような仕掛け、学校の中で茅ヶ崎市や地域のことを学べる、体験できるような場を儲け、地域との接触の機会を作ると良いと思います。茅ヶ崎市のことを教材にして、学校で勉強し、地域に親しみを持ってもらうところから始めるのはどうでしょうか。また、自治会に参加したくないといった人もいますが、茅ヶ崎市はまちぢから協議会というものがあり、その中に地域を担う様々な団体が入っています。それをもっと活用し、防災を含めた自治会の必要性、まちぢから協議会を核として、地域に根付いた活動を進めていっては良いのではないかという話になりました。

ワークショップ（1） テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討

グループ番号：D（子ども・若者支援）





ワークショップ① 「テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討」発表記録

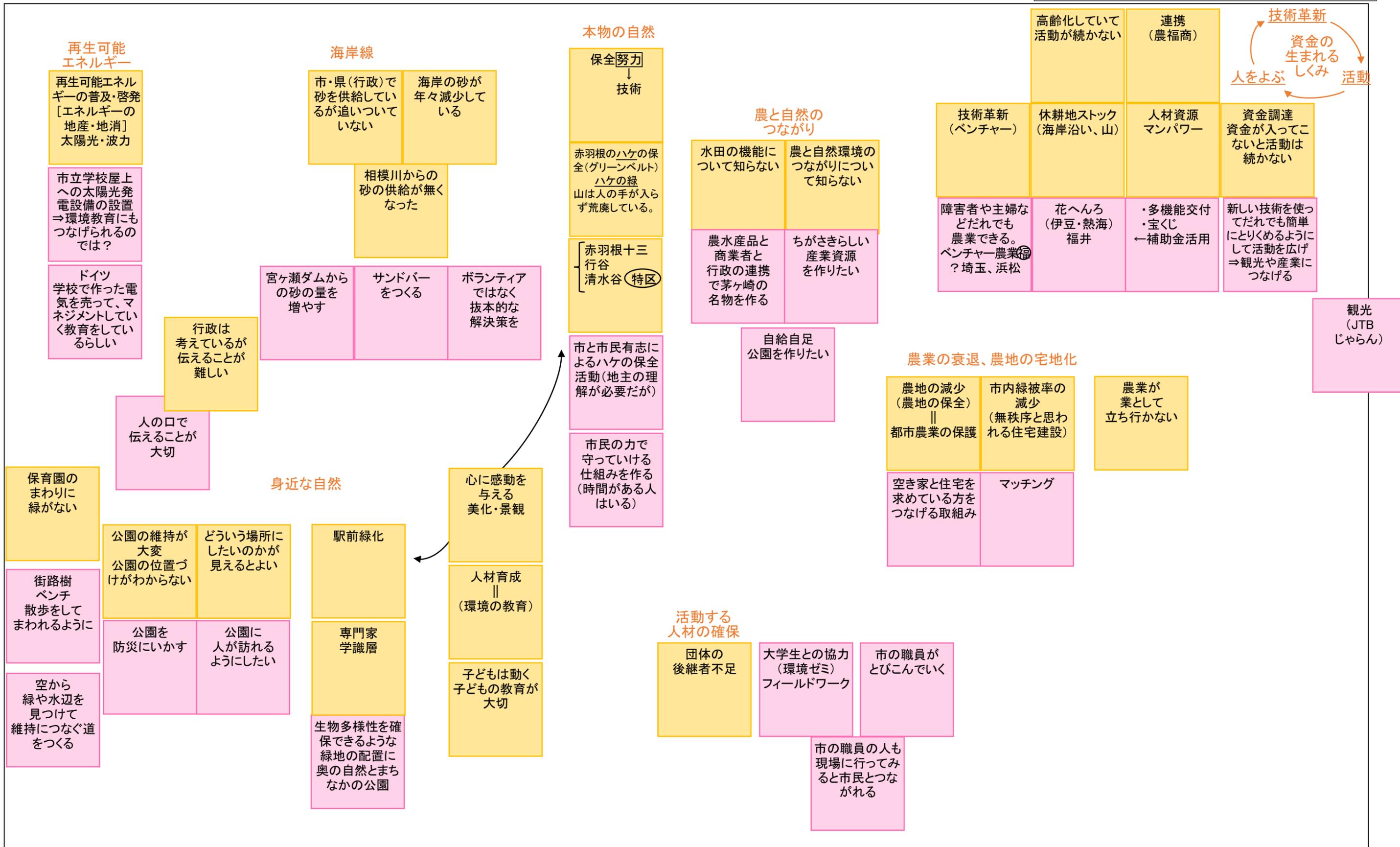
今回の一番の収穫は、茅ヶ崎市は市民活動が活発であることから色々な課題も出ているということを知ったことです。今年から市民活動のサポートに携わっていますが、生きがいのある仕事だと感じています。子どもや若者の支援のための課題ということで、1つ目に体験を通じた子どもの育成があげられました。そのための施策や計画が足りないのではないかとということです。茅ヶ崎市には世界的な技術を持っているものづくりの企業もあります。そうしたところで、小さな子どもの職業体験や技術の勉強の機会があると良いと思います。藤沢市などでは、ユースポートで職業体験を実施しているというお話もありました。障害のある生徒も、社会性向上の体験の場を地域で育てる、地域の人が地域の公園を核として活動できるような仕組みを、市民活動だけではなく、行政も主体的に関わって整備に力を入れてもらえれば、活動の場も増えていくと考えます。また、ボランティアなどの活動で支えられた子どもが成長し、支える側になるような子どもの育成が大事だと考えました。2つ目に、共働き世帯が普通になり、親子で過ごせる時間が減ってきています。親子の時間を増やすために職住近接ということで、茅ヶ崎市の中でそういった場を提供できるような施策をつくっていき、子どもを育てやすいまちになると良いと考えます。色々な経験を持った人が茅ヶ崎市にいたので、高齢者だけでなく、色々な経験を持っている方から、色々な生き方を学べる場を設けることが必要ではないでしょうか。そうした人とのつながりの中から、子育ての情報が得られたりすると思います。市も広報活動をしていますし、様々な市民活動もありますが、必要な人に情報が届きづらいといった状況もあります。自治会という組織の活用も重要だと思います。3つ目に、困難を要する子どもだけではなく、子ども全体の居場所づくりを考える必要があるということです。市民が生活するうえでの問題、課題は複雑です。コーディネートが市民が担っている場合が多いので、行政が積極的に関わり合うことも必要だと思います。横の連携では、市民の相談に対してワンストップでつないでもらえる仕組みがあると良いなどの話も出ました。今も職員によっては、細やかなサービスもあるようですが、もっと全体でできるようになると良いと考えます。

ワークショップ② 「将来都市像の実現に向けた検討」発表記録

1つ目は市の職員の役割のあり方を変えたら良いということです。市と市民と市民団体の間の橋渡しの役割を、行政が主体的にやっただけのようになると良いです。職員、市民、事業所と一緒に学ぶような場の設定も必要かと考えます。他には、市職員にも地域の行事に参加してもらえるような機会を設けてほしい、市民に市の実情を世代別にレベルや表現を変えて伝えやすくできないか、市職員が学習や交流の時間を持ってもらえるような働き方改革をしてほしいとの意見もありました。また、市役所の職員にソーシャルワークを学んでもらえれば、市民サービスももっと向上すると考えます。2つ目に情報提供のあり方です。色々な既存団体がありますが、市民活動団体とどうつないでいくか、共に話し合う場を設けてほしいということです。行政の役割が伝わっていない状況なので、もっと市民に知らせていくことも必要です。市民団体の活動を紹介するガイドブックも、もっとわかりやすく伝わるような情報提供を考えたら良いと思います。今、市の情報がタイムリーさに欠けるという意見もあるので、ラインなど全市民にわかりやすく情報が届くような仕組みづくりも必要なのではないのでしょうか。3つ目に活動の基盤づくりです。茅ヶ崎市は市民活動は盛んですが、会議の場所、サークルで活動する場所や体操する公園などがとても少なく、場所を確保するという課題があると考えます。また、地区によっては、コミュニティバスの時間などの周知が出来ていないために、高齢者の移動が難しく、対策が必要であるとの意見もありました。モデルとなるような市民団体の活動を、市民の皆さんに伝えるような情報提供、活動の基盤づくりを強化してほしいということです。以上、3つの提案がありました。

ワークショップ（1） テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討

グループ番号：E（環境まちづくり）



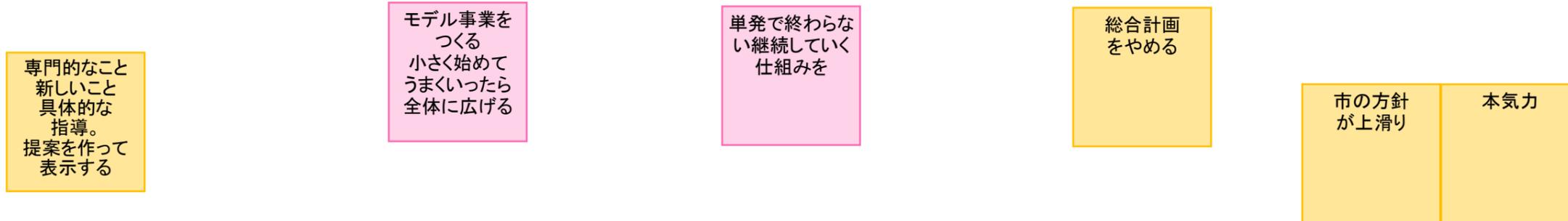
横のつながりを作る
(枠を越える)



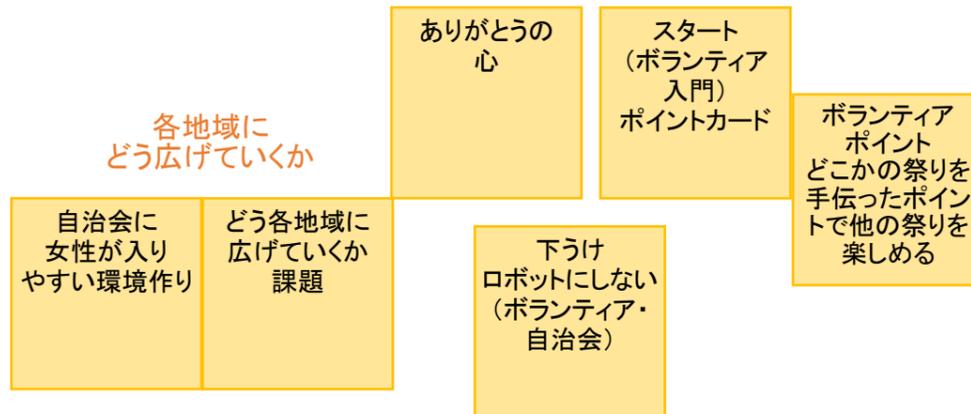
組織の
役割も明確に



日々の活動に
つながる仕組み



各地域に
どう広げていくか



ワークショップ① 「テーマに関する課題の共有と解決アイデアの検討」発表記録

環境のエネルギーや保全に対して多様な意見があり、茅ヶ崎市が見えたように感じます。赤羽などの奥の自然から海岸の砂をグリーンベルトにするなど、他市の事例も含めて皆さんで共有できました。そうした本物の自然の話から、身近な自然の話として、公園の生物多様性や駅前緑化の話、景観に関してや、取組、人材育成も含めた話になりました。そこから農業と自然をつなげる方法があるのではないか、今衰退している農地、宅地、空き地なども含めてやっていくためには大学生と協力したり、人材育成することで、もっと良い取組になっていくのではないかと結論になりました。

ワークショップ② 「将来都市像の実現に向けた検討」発表記録

行政の縦割りだけではなく、市民の縦割りをつなぐものが必要だと考えました。そのために、プロジェクト化してモデルケースをつくり、短期間で小さく始めてつなげてゆき、その中で学んでいくという意見ができました。行政のあり方はないでいくためにも大切なので、組織の役割を明確にし、目標・目的を明示することも必要だとなりました。総合計画を辞めるなどの意見もありました。

3. 参考資料

3.1. 当日資料



総合計画とは

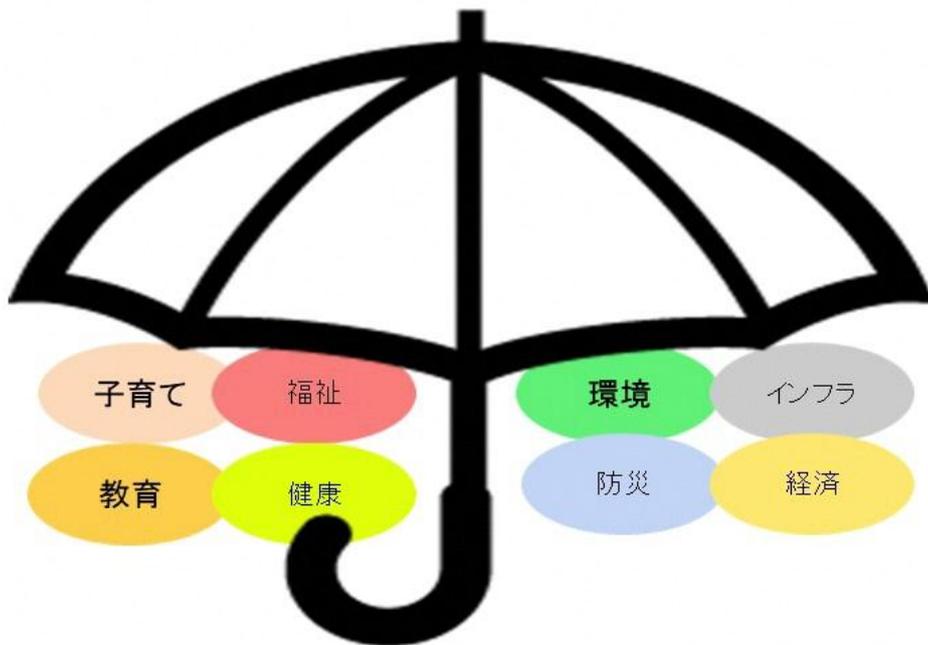
茅ヶ崎市自治基本条例

(総合計画等)

第18条 市は、市の目指す将来の姿を明らかにし、これを計画的に実現するため、この条例の趣旨にのっとり、政策の基本的な方向を総合的かつ体系的に定める計画(以下「総合計画」という。)を定めなければならない。



茅ヶ崎市が目指す将来の姿を明らかにすること

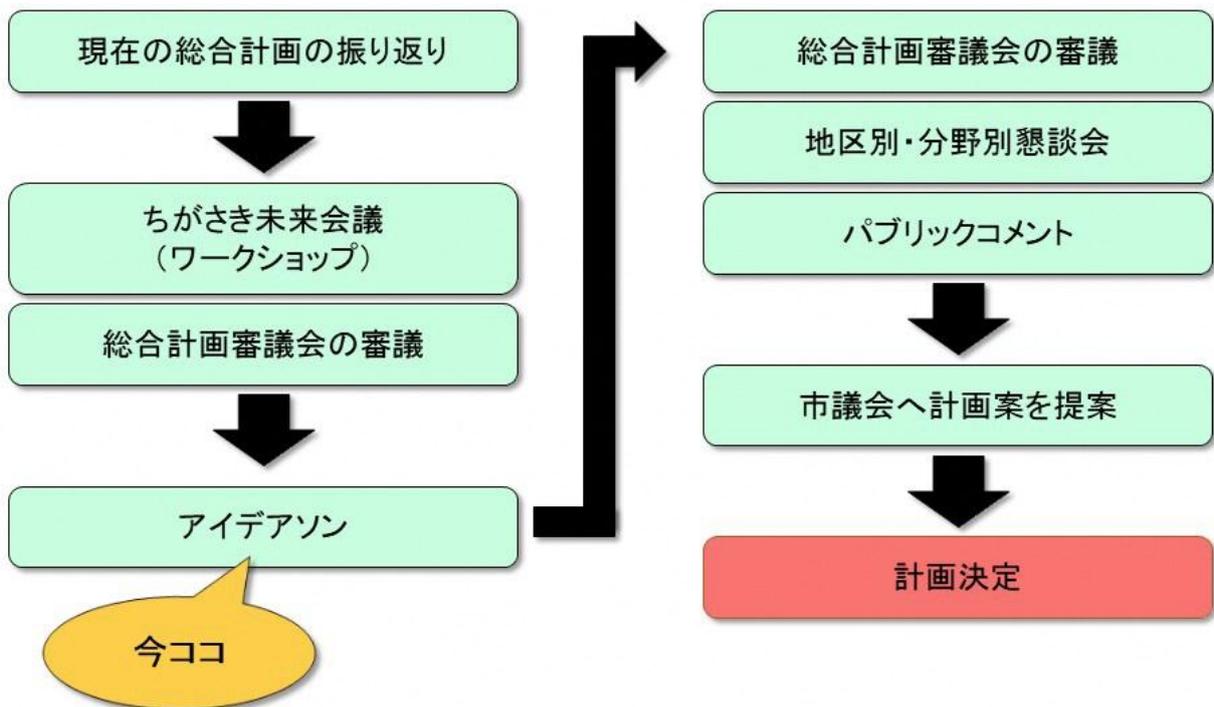


様々な政策の基本的な方向を総合的かつ体系的に定めること

策定のプロセス

総合計画の策定プロセス

7



現状の共有

将来人口の推計

9



年齢別（4区分）人口割合の推移と将来推計 10



検討中の「将来の都市像の基本的な考え方・価値観」11

①未来創造の仕組みと人の育成による進化し続けるまちの実現

②地域の中で自分らしく生きがいを持って暮らせる社会の実現

③「調和」と「寛容」が形づくる共生のまちの維持・発展

④「当たり前」にある暮らしの基盤の確保

行政としての役割を明確にして
しっかりと責任を果たす

- ◎市民の暮らしの基盤づくり
- ◎豊かな未来を創るための挑戦
- ◎未来に責任をもつ行政運営

市民との関係を深化させ、
ともに茅ヶ崎の未来を創る

- ◎市民との関係の深化
- ◎市民が力を発揮し問題解決できる社会へ

●実施目的

日頃から各種活動でご活躍いただいている皆様と、次期総合計画の将来像の実現やこれからの茅ヶ崎市のまちづくりに向けた具体的な取組みアイデアについて意見交換を行い、今後の行政の取組に活かしてまいります。

未来創造のアイデアを
どんどん出してください！

ちがさきアイデアソン 全体スケジュール 14

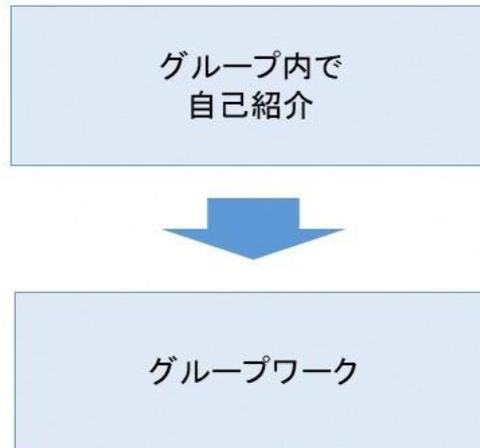
茅ヶ崎市のこれからのまちづくりにおいて、重点的に検討していく必要があるテーマを5つ設定し、テーマごとにアイデアソンを開催します。

日時	テーマ	意見交換の視点
平成31年 3月20日(水) 18:30~20:30	(A)安全・安心・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等への対応能力の高い強いコミュニティづくり ・誰もが地域活動に参加しやすい仕組みづくり ・人口減少・超高齢社会を見据えた茅ヶ崎らしいコミュニティづくり
	(B)(C)地域共生	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰もが支え手」、世代を超えた助け合い・支え合いの地域づくり ・高齢者の活躍の場、多世代交流の推進 ・地域ぐるみの健康づくり
平成31年 3月28日(木) 18:30~20:30	(D)子ども・若者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・困難を有する子ども・若者への支援 ・地域での体験活動を通じた子どもの育成 ・子ども・親子・若者の居場所づくり
	(E)環境まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎市の豊かな自然環境の保全と継承 ・自然資源を活かしたまちづくり ・街なかのみどりの維持(公園など)

本日のタイムテーブル

15

時間	項目	検討いただく内容
10分	進め方	
70分	ワークショップ(1) テーマに関する課題の共有と解決 アイデアの検討	みなさんが、取組の中で感じている茅ヶ崎市の課題とそれらの解決アイデアについて自由に対話をさせていただきます。
5分	休憩	
20分	ワークショップ(2) 将来都市像の実現に向けた検討	将来都市像の実現に向けて、市と団体等の組織、市民の協働がどうあるべきか考えていただきます。
10分	発表	



グループワークの最初の10分間は、自己紹介カードを使って、自己紹介をしてください。

お名前と お住まいの地域	所属団体名
今取り組んでいる こと（仕事、地域での活動など）	活動を通じて、 今感じていること

◎テーマに関する課題の共有とアイデア出しを行う。

⇒日頃の活動を通して感じている課題や、今後の活動に向けた問題意識など、テーマに関する課題出しを行ってください。また、それへの解決アイデアについても、意見交換を行ってください。なお、市の実情等を踏まえ、テーマごとに「意見交換の視点」を3つ設定していますので、そのテーマ検討を議論のスタートとして、意見交換を行ってください。

活動をしていて、**ここが重要な課題だ**と感じています。

その課題については、**こういうことに取り組んだらどうだろう？**

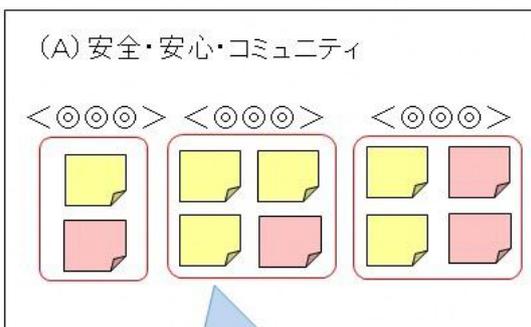
その課題であれば、**私たちは、こんな協力ができそうですよ！**

将来を考えると、**ここに力を入れて取り組まなくては行けない**と思う！

他の事例で、**こんな取組も行われているようだが、自分たちでもできるかな？**

●書込み作業(3分程度)

お手元にある付箋に、意見を書きこんでください。（付箋1枚につき一つの意見）



意見やアイデアをグループ化して整理してください。最後に、発表いただきます。

課題

アイデア

●貼り付け作業

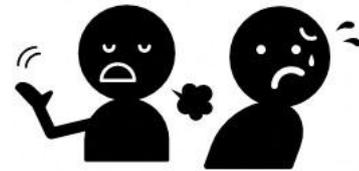
付箋の内容をグループ内で発表しながら、模造紙に付箋を貼ってください。近い意見や、関連する課題とアイデアは近くに貼ってください。

●思いついた意見をどんどん出しててください！

他の人の意見を聞いたり、対話の中で思いついたことについてもどんどん追記してください。



1人でしゃべりすぎない



人の意見を否定しない

「？」
を大切に

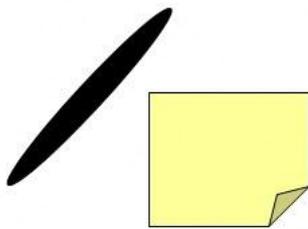


いっぺんに話さない

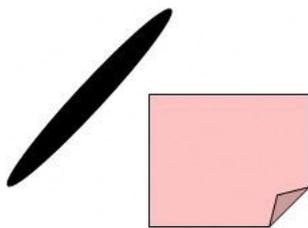
「意識する」
を意識する

自己紹介タイム

意見交換

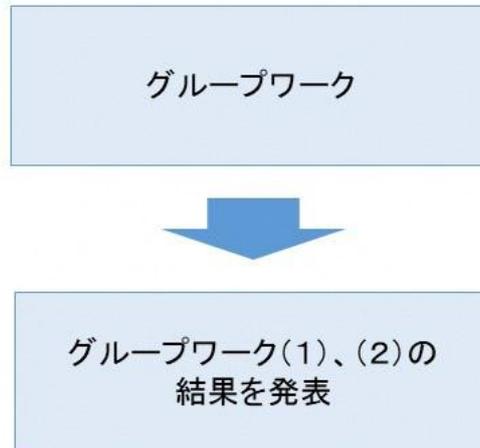


課題は黄色
の付箋を
使ってください。



アイデアはピンク
色の付箋を
使ってください。

休憩（5分間）



◎将来都市像の実現に向けた検討を行う。

⇒将来都市像の実現に向けて、市と団体等の組織、市民の協働がどうあるべきか考えていただきます。

【将来都市像の基本的な考え方・価値観】

- 未来創造の仕組みと人の育成による進化し続けるまちの実現
- 地域の中で自分らしく生きがいを持って暮らせる社会の実現
- 「調和」と「寛容」が形づくる共生のまちの維持・発展
- 「当たり前」にある暮らしの基盤の確保

【市政運営の基本姿勢のキーワード】

- 行政としての役割を明確にしてしっかりと責任を果たす
- 市民との関係を深化させ、ともに茅ヶ崎の未来を創る

【団体・市民との協働のありかた】

- ◎将来都市像の実現のために、団体等の組織や市民でできることは？
- ◎市と団体等の組織、市民の協働がどうあるべきか？

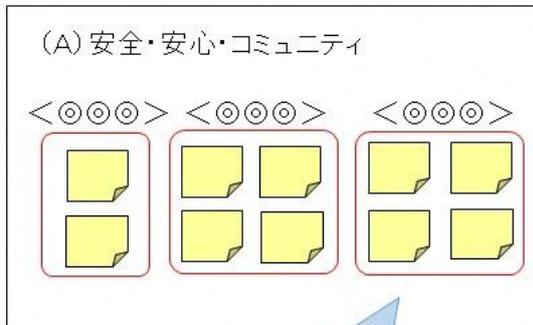
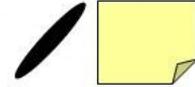
こういう体制があれば、**行政と連携も取りやすくなる**と思う。

行政、団体、市民はこういう関係で**あるべきだ**と思う。

この分野であれば、**〇〇によって、この将来都市像の価値観を実現できる**と思う。

●書込み作業(3分程度)

お手元にある付箋に、意見を書きこんでください。(付箋1枚につき一つの意見)



意見やアイデアをグループ化して整理してください。後ほど、発表いただきます。

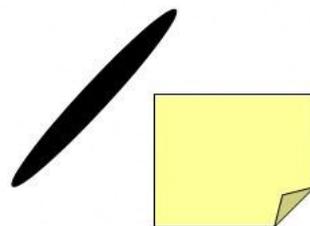
●貼り付け作業

付箋の内容をグループ内で発表しながら、模造紙に付箋を貼ってください。近い意見は近くに貼ってください。

●思いついた意見をどんどん出してください！

他の人の意見を聞いたり、対話の中で思いついたことについてもどんどん追記してください。

グループワーク



発表

- ◎発表者を決めてください。
- ◎1グループ3分を目安に、以下の内容について発表してください。
 - ①テーマに関する主な課題とアイデア
 - ②将来都市像の実現に向けた協働のあり方



Thank you!

